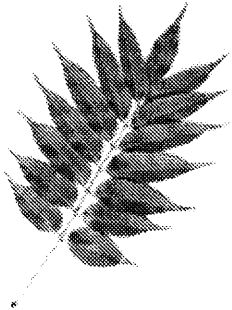


かぶれる草木について

ハゼ（赤っぽい茎が放射線状に広がっている）

ウルシ（赤っぽい茎が距離を開けて広がっている）



ハゼ



ヤマハゼ



ヤマウルシ

かぶれる木には、ハゼノキ、ヤマハゼ、ヤマウルシの主に3種類がある。いずれもウルシ科の落葉小高木である。

共通する特徴

羽状複葉（うじょうふくよう）を持つこと

葉柄（ようへい）が赤味を帯びることが多い。

秋の紅葉が鮮やか

西日本を中心とした暖地ではハゼノキやヤマハゼが多く分布し、一方の北日本や山間部ではヤマウルシの分布が中心となる。これらを総称して「ハゼ」「ハジ」「ウルシ」などと俗に呼んでいることが多く、どれも姿形はよく似ている。単にウルシという名の木も中国にあるが、日本では漆液を採るために山地で栽培され、一部に野生化したものが見られる程度である。ウルシの仲間はこのように漆液が採れるほか、果実からはロウも採取できる。

<資料・写真>

「葉で調べる樹木の見分け方」林 正之

<http://www.shizen-taiken.com/mhayashi/20030601.html>

ヌルデ

（葉と葉の間の茎にも、細い葉状になっている）葉は互生（ごせい）する。

（奇数羽状複葉（うじょうふくよう）で葉軸に翼（よく）があるのが最大の特徴。



敏感な人は、雨の日の下を通っただけでもかぶれる。

<写真> ウルシ科の見分け方

http://kanon101.cool.ne.jp/foto_sinrin/K_urusi/k_urusi.htm

ダニについて

マダニは、一般に体の表面が固いためhard tickと呼ばれる。家ダニとは違い、はるかに大きく体長2～30mmに及び、主に山野に生息する。これらのマダニはその生活環のなかで多くて一生に3度主に小動物（ノネズミ、小鳥）から吸血し、幼虫から若虫、成虫へと脱皮していく。雌成虫は産卵のためにさらに中、大動物（ウサギ、シカなど）へ寄生吸血する。その際に、たまたま人間が接触するとマダニに刺され被害（咬傷）をうけることになる。

マダニ類の持っているある種の細菌やウイルスによっていろいろな全身性の感染症をきたすことが問題となる。マダニ類に刺された後に生じる感染症では、ツツガムシ病とライム病がある。

マダニにかまれないために・・・

- ①できるだけ白っぽい服装をして、衣服に付着したダニを発見しやすくする。
- ②布目が細かく表面の滑らかな、明るい色の衣服を着るのがよい。袖口をしめる、裾をズボンに入れるなど、マダニの衣服内への侵入を防ぐ。
- ③地面には、必ずマットを敷いてすわる。
- ④すぐには、かまないの体で這っているのを見つけたら慌てずにティッシュなどでつかまえ、ビニール袋に密封してゴミとして捨てる。

マダニを見つける。

- ①着替えの時や水浴びの時などに、マダニの咬傷、衣服への付着の有無を調べるようにする。頭髪部もよく見るようにする。今まで気が付かなかったかさぶた・ほくろのようなものを見つけたら要注意！
- ②見つけたら、線香、たばこの火などを近づけ、体を破損させないようにピンセットでとるようにする。
- ③ポイズンリムーバーで、できるだけ患部にあるものを吸い出すようにして消毒する。少しでも虫が残っている可能性がある場合は、後に症状を来すことがあるので、必ず皮膚科に行くようにする。

<参考資料> 社団法人日本皮膚科学会 <http://www.dermatol.or.jp>

ハチについて

○ハチの種類

特に注意するハチ

スズメバチ（体長15mm）

アシナガバチ（体長22mm～27mm）

ミツバチ（体長13mmくらい）

●ヒトを刺すハチの種類は、主にミツバチと、スズメバチ科のスズメバチおよびアシナガバチである。スズメバチだけが危険なのではなく、アシナガバチでの被害も多い。

○スズメバチの特性

◇スズメバチの攻撃

- ①毒液を飛ばす。目にかかるとうけていられなくなる。
- ②体当たりして刺す。
- ③アゴで髪の毛などに体を固定して何度も刺す。
1度しか刺さないのはミツバチだけ。

◇スズメバチの攻撃の引き金

- ①巣への振動
- ②巣の近くで手を振り回すなどの大きな動作。
- ③香水や殺虫剤などの揮発性におい。
- ④黒い服、ひらひらするもの。
- ⑤ジュースなどの清涼飲料水
- ⑥蚊よけに使われる小型超音波発信器やストロボ光

◇スズメバチの警告・威嚇

- ①最初のハチは偵察隊（巣が7メートル以内にある。）そのまま通り過ぎるなら問題なし。
- ②向きを変えて戻ってくるなら、巣がかなり近い。
- ③ホバリングしながら、アゴでカチカチと音をたてて威嚇。

○ハチに出会わないために

- ・服装
- ・黒や茶色は注意！（クマと勘違いする。クマ→ハチの天敵）

○ハチに出会ったら・・・

動きを止めて様子をつかがう。（あわてて逃げると刺激することになる。）

身を低くして、首筋を押さえ、静かに静かにゆっくりしゃがみ込む。

落ち着いてきたら、後ずさりするようにその場を去る。

ハチが体に止まっても、動いてはいけない。

攻撃してきたら、ハチの攻撃を他に向けるために服などを頭の上で振り回して50mくらいダッシュする。

○ハチに刺されたとき

刺されたところ

- ①針が残っているなら、とげ抜きなどでぬく。
- ②ポイズンリムーバーで毒を絞り出す。水でよく洗い流す。ハチ毒は、水に溶けやすい。
- ③患部をしっかりと冷やす。
- ④タンニン酸、抗ヒスタミン軟膏、副腎皮質ホルモン軟膏をぬる。
- ⑤水をしっかりと飲ませる。

アナフィラキシーショック

- ・命にかかわる重症の全身症状である。

よくみられる症状

じんましん、呼吸困難、腹痛、嘔吐、下痢、および血圧低下を伴うショック等があげられる。

早いときにはハチに刺された後、数分～15分以内には症状がでてくる。意識がもうろうとしてきたら要注意。数時間後に症状が再びあらわれることもあり、一度、症状が落ち着いたからといって油断してはいけない。(しかし、遅ければ遅いほど症状は軽い)

ショック等により死に至ることもある。その多くは、喉のはれや痛み等を伴う気道閉塞(気道が塞がれること)、不整脈による心停止、重篤な酸素欠乏状態、血圧低下等が原因になっている。

メンタル面について

- ・刺されたときには、ひどい痛みと恐怖で大きな不安感におそわれているので、安心感を与えることが大切。
- ・「ハチ毒は水に溶けやすいので水洗いすれば大丈夫。」など、処置についての説明を行う。
- ・場合によっては、医療機関に連れて行って専門家の治療を受けさせる。

刺されたら・・・

アナフィラキシー
ショックの症状に
注意する。
(意識・発熱・吐
き気など)

患部をさがす



ポイズンリムーバー



水洗い



タンニン酸アルコール
抗ヒスタミン剤 塗布

ハチの毒は水に溶け
やすいからしっかり
洗い流せば大丈夫！
(…など治療の説明)

クマについて

クマは・・・

全長100～150センチ 体重40キロから130キロくらい
視力は、人間と同じくらいで、聴覚、嗅覚は人間に比べてかなり優れている。
クマは、100mを7秒台で走れるほど、速く走れる。木登り泳ぎも得意である。

遭遇しない工夫が必要

- 自分の存在をクマに知らせる。カウベルの携帯（トイレの時など）
- 大きな音や高い周波の出る鈴や笛を鳴らして存在を知らせ、クマに逃げてもらう。
- 山にクマがいるのは当たり前。クマの糞や足跡を見つけたら注意。
- 悪天候の日は注意。雨や風の強い日、霧の濃い日は、クマも人の気配に気が付かず、接近することもある。
- 単独行動をしない。
- 活動時間を知る。（朝5時～10時頃、夜6時～10時頃）
- 子グマに注意！（近寄らない。母グマがいる。）
- 食料を放棄しない。（動物を呼ぶ。繰り返し出没する。）

出会ってしまったときのために

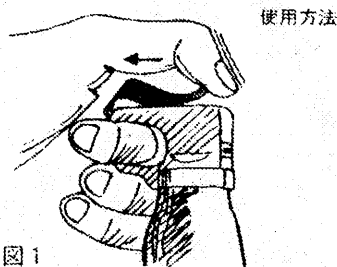
- 慌てず騒がず、落ち着くことが肝心
- 急に背中を見せて走って逃げることは非常に危険。反射的に追いかけてくる。
- カウンターアソルトを発射させる。

カウンターアソルトの使用法

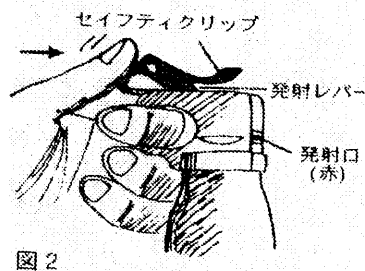
（右利きの場合）

- ①左手で缶の下部を軽く支えて右手の人差し指をグリップの穴に入れ親指をセーフティクリップに引っかけて外す。（図1）
- ②親指で発射レバーを押す。ガスがすごい勢いで噴き出す。ガス圧で、腕が後方に押されるのでしっかり持って腕をまっすぐ伸ばし、できるだけ缶を体から離す。
- ③使用後は、セーフティクリップを必ず発射レバーに差し込む。（図2）

■セーフティクリップを外すとき



■セーフティクリップを付けるとき



注意！！

噴射し続けても5秒くらいしかもたない。
風上から風下に向けて噴射するようにする。

<参考資料> 「山口県のツキノワグマ保護管理マニュアル」
アウトバック「クマに襲われないためのアドバイス」